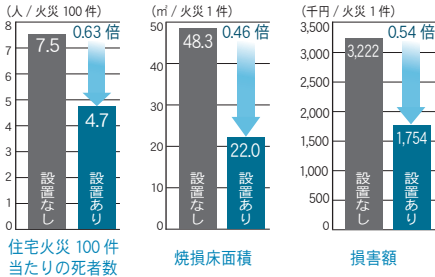


住宅用火災警報器の設置効果



◀平成19年～21年までの3年間に於ける、失火を原因とした住宅火災44,085件について、住宅用火災警報器の効果进行分析(消防庁調べより)

被害状況が、おむね半減しています。住警器の基本的な取り付け場所は、日常、寝室に使用している部屋や、寝室が2階などの場合には、階段のおどり場などに設置します。また、7㎡(おむね4畳)以上の部屋が5つ以上ある階には、廊下に設置する必要があります。まずは、寝室として使用する部屋、避難経路となる廊下や階段のおどり場などに設置し、必要に応じて他の部屋にも設置すると、さらに安全です。

防火対策 火災を出さない心がけ 大切な人や財産を守るため 防火に対する心がけを

消防法・館林地区消防組合火災予防条例により、平成18年6月1日以降の新築住宅には、火災警報器などの設置が義務づけられています。また、平成20年6月1日より既存住宅についても設置義務がありますので、ご注意ください。



住宅防火対策に 住宅用火災警報器を

住宅用火災警報器は消防設備販売店、ホームセンター、電気店などで購入できます。消防署では販売しておりません。また、購入の際には基準に合格したNSマーク(日本消防検定協会の品質保証)の付いているものが安心・安全です。

火災の発生源と 死亡原因は何か



全国の住宅火災による死者は、平成15年以降連続で年間1万2,000人を超えています。平成21年には、前年比約1割の減少となったものの、死者数に占める65歳以上の高齢者の割合が、半数を占める状況が続いています。住宅火災による死者のうち、約6割が逃げ遅れによるものです。

また、館林地区消防組合管内(館林市・板倉町・明和町・千代田町・邑楽町)の平成21年中における火災発生件数は、62件で前年(54件)に比べ8件(15%)の増加となっています。平成21年中は、約6日間に1件の割合で、火災が発生したことになります。火災種別に見ると、建

防災ママさん 講習会を開催

わが家から、地域から 火災を出さない心がけ



平成22年12月11日、役場で防災ママさん講習会が開催されました。この講習会は、家庭の防火や防火意識の向上を目的として毎年開催。31回目の講習会となりました。この日は、各地区の家庭の主婦85人が参加。講習会では、東京電力の職

員やLPガス協会の職員のかたを講師に招き、電気的安全管理や家庭におけるLPガスの取り扱い方法などを学びました。また、参加者の皆さんには邑楽消防署職員のかたの指導のもと、消火器の使用法、消火実験・初期消火訓練などを体験してもらいました。



この講習会で火災の恐ろしさを知った主婦の皆さんが、地域に帰って近所の人たちに自分が学んだことを、教えてあげることが何より重要です。火を出さない、出させない、そのためには地域との連携はとて大切だからです。今後も邑楽町から一軒でも火災を少なくするためにも、こうした講習会を通して、防火意識の向上を図る必要があります。

防災ママさん講習会を通して 防火意識の向上と地域の連携 強化を深めることが大切です。



邑楽町婦人消防隊 隊長 浦野美子さん

住宅用火災警報器は火災を早期に感知し、気づかせてくれるので 逃げ遅れを防ぐことができます。



館林地区消防組合 邑楽消防署 署長 堀井英雄さん

暮らしと命を守る 住宅用火災警報器



住宅用火災警報器(以下、住警器)は、火災により発生する煙を早期に感知し、気づかせてくれる重要な機能を備えています。全国的にみても、死者数、焼損床面積、損害額で見ると、住警器を設置している場合は設置していない場合に比べ

物火災が45件でもっとも多く、全火災の73%を占めています。死者が発生した火災は4件(4人)、そのうち逃げ遅れが3件(3人)となっています。平成21年中の邑楽町の火災発生件数は12件で、そのうち建物火災が10件。死者も1人出ています。これからの季節は、暖房器具など火を使用する機会が多くなる季節です。火の取扱いは十分注意しましょう。

防火・防災の教育や訓練にご活用ください!



防火講習会などで、ぜひ利用してください

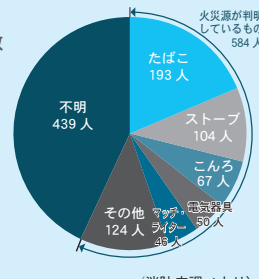
館林地区消防組合では、民間防火組織などの防火思想の高揚や育成強化などを図り、災害に強い人づくり・安全な地域づくりの推進を目的に、宝くじの助成金で防火広報用視聴覚資料を購入しました。防火・防災などの教育や訓練時に貸し出しをしますので、ご活用ください。

▼貸出対象 防火・防災などの教育や訓練を行う組織または団体

▼申込・問合せ先 館林地区消防組合消防本部 ☎ 72-3171

住宅火災の発火源別死者数

発火源が判明しているものに限った場合、「たばこ」「ストーブ」「電気器具」「マッチ・ライター」、この5つの発火源で約8割を占めています。



住宅火災による死者数の構成

平成21年中の住宅火災による死者は1,023人、1日平均約3人が亡くなっています(放火自殺者などを除く)。このうち約6割が逃げ遅れによるものです。

